



特別
イ 4
3163
57



三
14
3163
57

院院高百首和親 承久四年二月廿日

題春

元日 餘寒春日 狂風 晴

春日祭 石清水時祭 遊園

獨荷朝 未教花 綠柳 苑

躑躅 雉 殘鷓 蛙

夏

暖氣 友衣 夏草 瞿麥

扇 樹陰 避暑 友區 鴉河

夏物 蟬 龜

秋

強暑 晚立 枯風 夕之 後朝

九月 九日 秋夜 曉月 風

稻 毒 稂 田 草 香 葛 旅

秋 山 松 密 鈴 惡 蒼

冬

寒初易 野行律 落葉

五節 推采 薪 念 鷺 卷

真調 佛者 舊年 立春

憲

忠 忠 隔一夜忠 經月忠

學之 通孝之 實善之

且思之 寢食之 待令別忠

難

雲 星 出 湯 石 水 海 原

龍池古寺社柳橙
小藤萍元服媛七夜
仙宮唐人王昭君妓女
泉部舟隣笛筆

蜘蛛結



意

元日

ふりおりの金のかげ年暮えはついで成る小雛
あけのきのあけのきつりはふらん年暮の
うらむいそふと命のすけにむしとんか忠房
そのゆりおりのかたのくさのけいこあるを
やうららむらりの清草はむすもてはあむね
きまのゆりおりのかたのくさのけいこあるを
法人のゆりおりのかたのくさのけいこあるを

散乞

わがまゝにたゞしきまゝに
二月の十日ころに
あつたおぼしき
物に
うづらの中し
なまこめ
石清水の時祭

石清水の時祭

あつたおぼしき
物に
うづらの中し
なまこめ
石清水の時祭
あつたおぼしき
物に
うづらの中し
なまこめ
石清水の時祭

志賀の歌

あつたおぼしき
物に
うづらの中し
なまこめ
石清水の時祭
あつたおぼしき
物に
うづらの中し
なまこめ
石清水の時祭

あさみぢのあやうりつてしりしむきなるものごとく
まはしゆくしゅうぎんあつたうさくさむねあめいしそ 逸

稲荷詣

いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
稲荷詣のりたれとあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ
いそいそとたのむるあつたうさくさむねあめいしそ

お参り

あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ
あつたうさくさむねあめいしそ

稲梅

あつたうさくさむねあめいしそ

わらうのうらなう梅のわらうのうらなう
秀梅のうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう

桃記

桃記のうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう

落苑

落苑のうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう
うらなうのうらなうのうらなうのうらなう

しるしをいふはたまたまの事なりとて
都てしるしあるらんやのたもつとて
進

龜

ちまのびのこもたはあつとて
しるしをいふはたまたまの事なりとて
進

木

残暑

しるしをいふはたまたまの事なりとて
都てしるしあるらんやのたもつとて
進

映互

お風川に渡られた一帯も山もあはれなふ 西の
まのわらわれとあひやれをいれあけりけるを陸
まのけと例せば下りたれあはれな海と去進

八月十八日

あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
はあつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所

九月九日

女のあつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所

十月

あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所
あつきの水もあはれなふと想ひあはれなる 此所

老翁の記に... 河津の... 福也

河津の... 福也... 老翁の記に... 河津の...

野行集

老翁の記に... 福也... 河津の... 老翁の記に...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The script is consistent with the one on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

伊勢の山に生るる桂木は昔は西の都へは
万代の山に生るる桂木は西の都へは
の磐石の山に生るる桂木は西の都へは

桂

古原の山に生るる桂木は西の都へは
秋の山に生るる桂木は西の都へは
金葉の山に生るる桂木は西の都へは
修の山に生るる桂木は西の都へは
古の山に生るる桂木は西の都へは
神の山に生るる桂木は西の都へは

久留の山に生るる桂木は西の都へは

小藤

伊勢の山に生るる桂木は西の都へは
秋の山に生るる桂木は西の都へは
金葉の山に生るる桂木は西の都へは
修の山に生るる桂木は西の都へは
古の山に生るる桂木は西の都へは
神の山に生るる桂木は西の都へは

年

六家院女
大進

同定成女

